

「いしかりシニアの生涯学習ガイドブック 2020 年版」(仮称)の作成について

提案 木村 純

1. 作成の意義と目的

- (1) 石狩市における高齢化（人口減少をともなう）のなかで、現に高齢者が生涯学習活動をはじめ地域においえるような役割を果たし、また、高齢者の暮らしを支える仕組みはどのようなになっているかを社会教育委員として知ること。
 - ・石狩市の高齢化と地域づくりの課題
 - i 高度成長期に開発された団地（例えば花川地区）の急速な高齢化
 - ・とくにコミュニティの暮らしと自治をめぐる問題
 - ii 漁業地域や厚田・浜益地区の過疎化を伴う高齢化
 - ・地域の産業の未来と生活環境をめぐる問題
 - 生活環境の悪化と孤立や地域づくりの担い手をめぐる問題
- (2) 石狩市の地域づくりや社会教育の誇るべき点は市民の自主的活動を行政が支援するという協働の活動を中心に発展してきたが、シニアの方たちにもそのような活動に積極的に関わってもらいたい。高齢者は地域のかげがえのない存在として様々な支援を受けるだけでなく、地域づくりの担い手として元気でいてもらいたい。そのためにどのような活動の場（それは「居場所」）があるかを紹介すること（同時に、そのことを社会教育委員自身が知ること重要である）。
 - ・石狩市の人口構成の特徴は、札幌市内やその周辺の地域で働く人が多く、とくに男性の場合は、リタイア後に「定時制市民」から「全日制市民」となる場合が多い。
 - ・「余暇の時間が増えたから、もっと石狩の自然環境や歴史に触れて自分の人生を充実させたい」、「これからは石狩市に恩返しをしたい。何か自分にできるボランティアや社会参加の活動はないだろうか」 → このような情報を提供する。
- (3) 社会教育委員がこれらのことを自ら調査し、ヒアリングを行うことは、社会教育委員自身の学びであり、石狩市の生涯学習・社会教育の活性化につながると同時に、多くの市民と出会うことで社会教育を発展させ、まちづくりをすすめるためのネットワークづくりにつながる。
- (4) 以上のことを踏まえて、シニアに様々な社会参加の情報を伝えると同時に石狩市にはシニアの豊かな暮らしを支えるどのような仕組みがあるかも知ることができるガイドブックとする。それは、単なる情報提供にとどまらず、様々な取り組みにかかわる市民ひとりひとりをできるだけ多く実名で紹介する（できれば写真入りで紹介する）。ガイドブックを発行するとともに、ネットでも見られるようにする。また、紙の媒体としては、社会教育委員によるガイドづくりの実践として書籍を出版することも目指す。

2. ガイドブック(仮称)の構成(第1次案)

- (1) 社会参加編
 - ① 生涯学習編

どんな学習機会があるか（それぞれにシニア世代に対してどのような事業があるかをヒアリングする）

- ・「老人大学」 ()
- ・「老人クラブ」 ()
- ・「いしかり市民カレッジ」 ()
- ・公民館 ()
- ・図書館 ()
- ・博物館 ()
- ・厚田区・浜益区 ()

② 市民活動編

どんなボランティア活動があるか(どんなボランティア活動が求められているか)

- ・社会教育施設（公民館・図書館・博物館） ()
- ・学校 ()
- ・NPO・ボランティア活動 ()
- ・社会福祉協議会 ()
- ・福祉施設 ()
- ・自然環境の保護、観光・郷土史ガイド ()
- ・防災 ()
- ・その他 ()

③ 「居場所」編

どんな居場所があるか．そこではどんな活動（居場所づくり）をしているか．

()

(2) 仕事編

高齢者はどんな仕事を期待されているか

(3) シニアのためのサービス編

3. すすめ方と日程

- (1) ガイドブック作成の役割分担をする． 社会教育委員の皆さんにそれぞれ分担をお願いする．今年度内に分担・グループ化を行い．作成・編集の完了は来年度末を目標とする．
- (2) 教育プランへの提言書のための話し合いと並行してすすめる．教育プランの検討のグループづくり（例 平成 26 年度提言書では、第 1 分科会①地域の高齢化と高齢者の孤立を防ぐ活動、②石狩市のコミュニティの現状について 第 2 分科会③みんなで考えよう子育て支援、④地域社会と学校支援、第 3 分科会⑤地域を創造する社会教育施設の役割などであった）
えば以下のようなグループごとに検討）．ガイドブックづくりとグループができるだけ重なるようにする．
高齢者の学習、子育て支援と社会教育、学校支援と社会教育（コミュニティスクールと社会教育）、居場所づくりと社会教育、環境保護と防災教育などが考えられる．
- (3) 教育プランへの提言書づくりのスケジュール